

指導資料

児島県総合教育センター

家庭, 技術家庭 第40号

小学校, 中学校, 高等学校, 特別支援学校対象
平成27年4月発行

消費行動における意思決定とその重要性を理解させる学習指導の工夫

これからの消費者は、消費者被害を防止し、安全・安心を確保するために、消費生活に関する法令や規則等について知る努力をし、消費行動において、適切な意思決定をすることが求められている。このようなことから、消費生活について主体的・能動的に学ばせることで、正確な知識や適切な判断力を身に付け、知識を基に実践することができる消費者を育成する必要がある。

そこで、本稿では、消費行動における意思決定とその重要性を理解させる学習指導の工夫について述べる。

1 消費者教育と家庭科の学習内容の関連

(1) 『消費者教育の推進に関する法律』について

平成24年12月に施行された『消費者教育の推進に関する法律』では、各ライフステージに応じて体系的に消費者教育が行われる必要性が示されている。各ライフステージにおける消費者教育の意義や目標は「消費者教育の体系イメージマップ」(「消費者教育ポータルサイト」参照、以

下「イメージマップ」という。)に示されており、家庭科、技術・家庭科との関連も大きいことから、各学習内容の目標を達成しながら消費者教育を推進していくことが望まれる。

(2) 消費者教育と家庭科の学習内容の関連
学習指導要領においては、社会科、公民科、家庭科、技術・家庭科などを中心に、従前と比べて、消費者教育に関する内容の充実が図られている。表1は、消費者教育に特に関連のある家庭科の学習内容を校種別に整理したものである。

消費行動についての学習には、各校種間で次のような系統性がある。

【小学校】 他の学習内容と関連を図ることにより、消費行動について、物や金銭の活用の視点から生活を見つめたり、限りある物や金銭が大切であることに気付いたりできるようにすることをねらいとする。
【中学校】 身近な消費行動を振り返ることを通して、家庭生活における消費の重要性に気付き、消費者の基本的な権利と責任について理解を深めるとともに、物資・サービスの適切な選択、購入及び活用ができることなどをねらいとする。
【高等学校】 リスク管理の考え方等を導入した経済計画や消費者としての意思決定の過程等の重要性について理解し、主体的に判断できることなどをねらいとする。

表1 消費者教育と特に関連のある家庭科の学習内容

	小学校	中学校	高等学校(「家庭総合」)
項目・事項	D 身近な消費生活と環境 (1) 物や金銭の使い方と買物 ア 物や金銭の大切さ、計画的な使い方 イ 身近な物の選び方、買い方 (2) 環境に配慮した生活の工夫 ア 身近な環境とのかかわり、物の使い方の工夫	D 身近な消費生活と環境 (1) 家庭生活と消費 ア 消費者の基本的な権利と責任 イ 販売方法の特徴、物資・サービスの選択、購入及び活用 (2) 家庭生活と環境 ア 環境に配慮した消費生活の工夫と実践	(3) 生活における経済の計画と消費 ア 生活における経済の計画 イ 消費行動と意思決定 ウ 消費者の権利と責任 (4) 生活の科学と環境 ア 食生活の科学と文化 イ 衣生活の科学と文化 ウ 住生活の科学と文化 エ 持続可能な社会を目指したライフスタイルの確立

図1は、小学校において、D(1)イと「A 家庭生活と家族」の「(3)ア 家族との触れ合いや団らんを楽しくする工夫をすること。」を関連付けた学習のめあてと期待される児童の学習カードの記入例等である。ここでは、図1に示す「選択の観点」に気付かせ、物を適切に購入できるようにするための学習活動が求められる。具体的には、よりよい物の選び方について考え、理由を挙げて意見を交換し合う学習活動や買物模擬体験等が考えられる。

「イメージマップ」では、小学生期の重点領域「生活を設計・管理する能力」の目標は、「物の選び方、買い方を考え、適切に購入しよう」となっているので、関連する学習活動となる。

このように、家庭科の学習において、日常生活における消費行動の場面を意図的・計画的に設定し、意思決定の機会を設定していくことにより、消費者教育の充実も図ることができる。

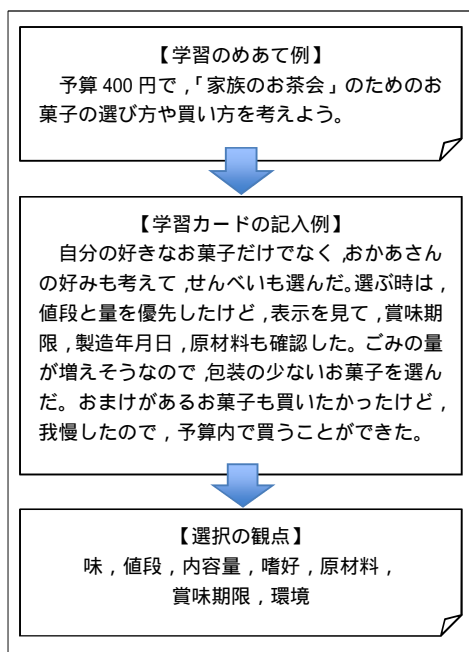


図1 小学校における意思決定の例

2 消費行動における意思決定とその重要性

(1) 消費行動における意思決定

消費行動とは、財やサービスを購入し、消費することである。「高等学校学習指導要領解説 家庭編」(H22)の家庭総合では、消費行動における意思決定の過程の例として、「問題の自覚 情報収集 解決策の比較検討 決定 評価」と示している。これは、図2に示すように、種々の情報を基に、自分自身の資源の活用法を工夫し、意思決定をする過程である。

指導に当たっては、児童生徒が、意思決定をするために考え、工夫した結果として表出される学習カードの記入状況等を明確にして、学習活動を展開していくことが望まれる。

(2) 意思決定の重要性

私たちは日々、消費行動を繰り返して生活を営んでおり、自覚の有無に関わらず、意思決定を繰り返しながら金銭という資源を活用している。また、消費行動を通して、国内外の生産者等様々な人にも影響を及ぼしている。そこで、質、価格とともに、安全性、機能性、耐久性、操作性や環境、社会的公平性等を比較検討し、批判的思考に基づいて主体的に意思決定することが求められている。特に、高等学校では、卒業後のライフステージにおいて、種々の意思決定が想定されることから、自分自身の意思決定の傾向を認識させ、実生活に役立てさせたい。

このようなことから、子供たちによりよい消費行動のための意思決定の重要性を理解させることは、大変意義深い。

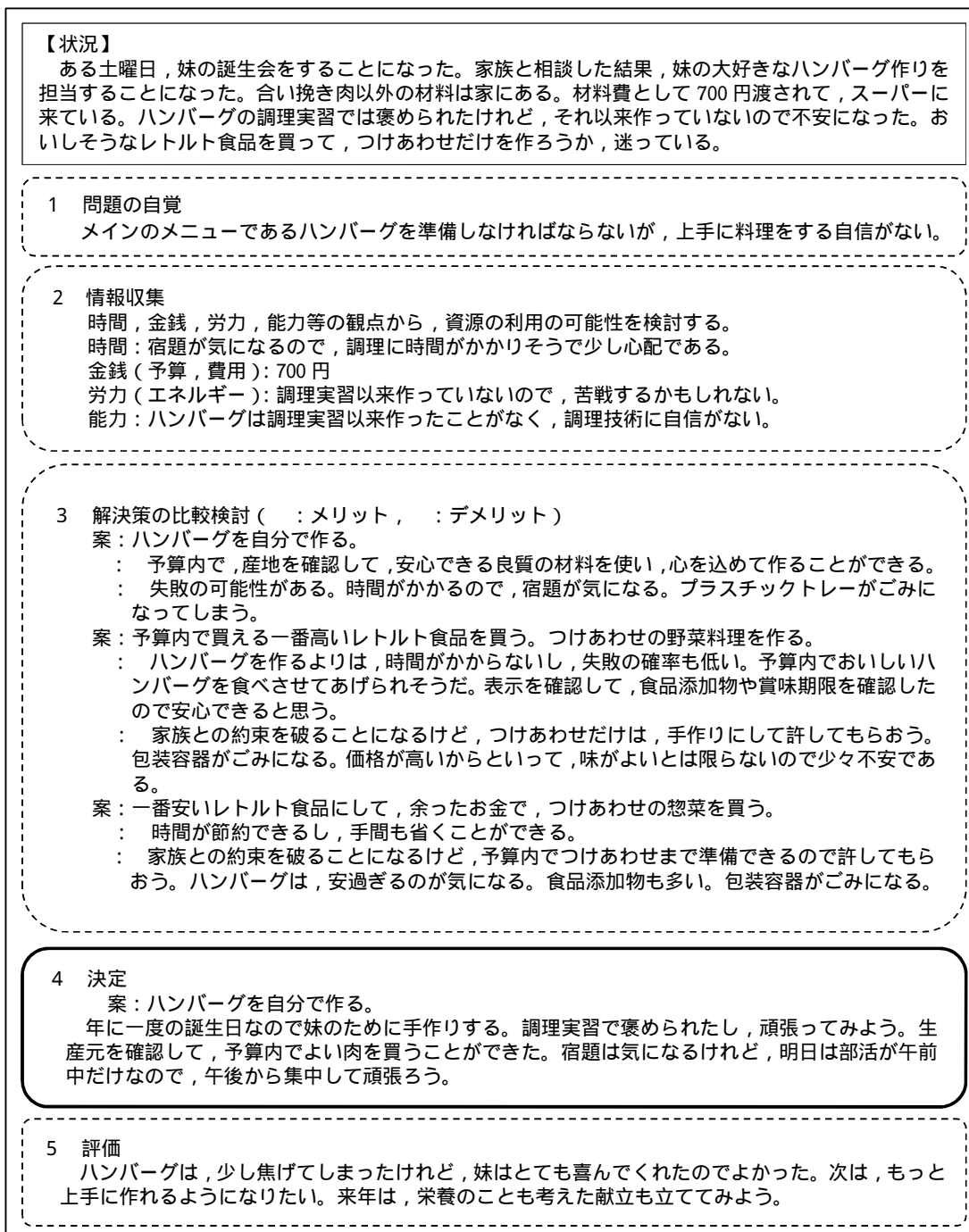


図2 意思決定の過程の例

3 意思決定の重要性を理解させる学習指導の工夫

(1) 消費者教育に関する教材等の活用

消費者庁の「消費者教育ポータルサイト」には、国の機関や消費者団体等が作成した教材が集約されている。これらの

教材は、「イメージマップ」に合わせて、対象期や重点領域が明確になるよう整理されているので、学習内容に応じて、適宜活用することができる。教材は、クイズ形式、すごろく等の参加型の学習も多く、楽しく学ぶ工夫がなされている。

